

# 人権さんだ

8月号

令和3年(2021)

No. 509

平和を願う心「命どう宝。命こそ宝。」

～兵庫県出身の沖縄県知事～

《問い合わせ》

福祉共生部共生社会推進室人権推進課

TEL: 559-5148 FAX: 562-1294

E-mail: jinken\_u@city.sanda.lg.jp



▲ 沖縄県庁知事執務室があった「ガマ」

神戸市出身の沖縄県知事がいたことをご存じでしょうか？

島田勸知事(1901～1945)は、官選知事でありながら沖縄の人々に強烈なメッセージを残しました。当時の知事としての立場から「戦争反対」とは決して言えなかつたと思いますが、島田がいつも大切にしていたのは「一人一人の命」でした。

島田が常に言っていた「命こそ宝」。これは私たちが願う「恒久平和」の原点です。平和な社会を恒久的に実現するために、私たちはあらゆる努力をしなければなりません。何よりも、過去の戦争で命をなくした多くの先人の思いを受け継ぎ、一人一人の命を大切にすることを実現しなければなりません。今号では、沖縄戦の歴史を振り返りながら「命の大切さ」について考えます。

〈島田勸氏のプロフィール〉



少年時から野球が得意で、京都の第三高等学校では主将、東京帝国大学卒業後は野球部監督として活躍。卒業後は内務官僚

として活躍、1945年1月、沖縄県の知事として現地に赴き沖縄戦火の中で執務した後、消息を絶った。

(写真提供: 那覇市歴史博物館)

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

## 新しい知事の赴任



1944年10月10日、那覇はアメリカ軍による大規模な空襲を受け、市内は壊滅的な被害を受けました。大きな建物は標的になるという理由で県庁は分散され、幹部職員も所在がわからない状況になり、事実上崩壊状態となりました。このような戦火の中、島田は新しい知事として沖縄県の人々と出会うことになりました。

当時の知事は選挙で選ばれるのではなく、内務省から命を受けて赴任するというものでした。県庁が崩壊状態の沖縄県に誰が行くのか？その打診を断った人がいた中で、島田は拒否しませんでした。

1945年1月31日、「兵隊が赤紙(※1)一枚で戦地に行くのに、俺は死にたくないから誰かが行って死んでくれとは言えん」と言って沖縄に赴任しました。

※1 軍隊への招集を命じる指示書

## 住民の命を守れ



1945年3月26日頃アメリカ軍が沖縄に上陸を始めます。それまでのおよそ2か月間、島田は県庁の組織作りと住民の安全確保に奔走します。バラバラになっていた

た職員で共に行動できる仲間を集め「明るくやろう」と声をかけ、県庁職員の信頼を得たといいます。先の大空襲で知事官舎が消失していたため、民家を間借りして官舎とし、地域住民や農家の人々との交流を深め、住民の不安な思いや願いを聞き取っていきました。その中で「米が足りない」と聞き、450トンの台湾米を調達しました。

また、赴任当初から住民の命を守ることを最優先課題とし、疎開を積極的に勧めました。当時の人々は生まれ育った土地を捨てがたく、なかなか離れようとしませんでした。島田は一人で農家に出向き、住民に疎開を勧めて歩きました。その結果、県外には7万3000人、沖縄本島北部に15万人が疎開していきました。

## 移動する県庁



アメリカ軍が沖縄に上陸を開始する頃から、島田は周辺の「ガマ」や「壕」(※2)を歩き回って、新たな県庁の場所を探し始めました。1月の赴任以来、県庁の統合や組織作りなどに取り組んできましたが、事態はますます悪化し、ついに県庁の分散を決定しました。

そして新しい知事執務室は、あえて日本軍司令部のある壕の近くに配置しました。(表紙写真)

「県庁壕」の中で比較的広い空間を使って幹部職員を集めた会議が行われていました。当時の主な議題は「皆がどうやって食いつなぐか」で、住民に対して「どこの畑のイモでもいい。見つけたら食べる。その代わり、食べた後は後の人のためにイモの葉を植えておくこと」という指示をしたそうです。

5月に入り県庁は、アメリカ軍の砲撃の危険と常に向き合いながら、何度か他のガマへと移動しました。島田は「命どう宝。命が宝だぞ」と周りに常に言いながら「ガマ」から「ガマ」へ渡り歩きました。この頃は、もはや組織として行動することは不可能な状況になりました。

6月3日には最後の県庁となる「ガマ」に到着しましたが、その後、日本軍の司令官らが自決するなど、あらゆる統治機能がなくなっていました。

※2 ガマとは、沖縄本島南部に多く見られる自然洞窟のこと。壕は土を掘って人工的に作った穴であり、戦時中は国内で多くの防空壕が作られました

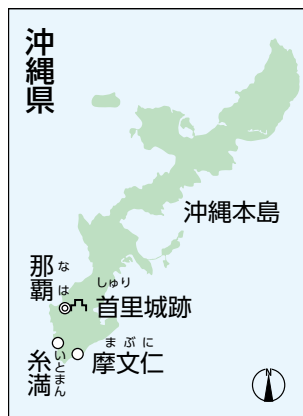
## 今をもって県庁を解散する



島田の表情がいつもと違って見えたというその日、「よくやってくれた。ありがとう」と周囲の皆にもぎらいたい言葉を語った後、「今をもって沖縄県庁を解散する」という声「壕」の中に響きました。皆の安全を祈り、島田が壕を出たのは6月14日でした。

6月23日にはアメリカ軍が本島南端に星条旗を立て沖縄地上戦の終結を宣言しますが、アメリカ軍はまだ本島に残っていて、住民は不安と恐怖の中にいました。島田は壕を出た後も、県知事としての職務を続けていましたが、6月24日以降、まったく消息がわかっていません。

島田に関して残っている資料は多くはありませんが、まわりの人々に残したいいくつかの言葉が残っ



ています。

「人は楽しみがなくなるとはいけない」「命を大事にしなさい」

「これからは、自由です。あなた方に命令を下すものはいません。どうか、沖縄の為に皆、生き長らえてほしい」

これらの言葉で当時の沖縄の人々は生きる勇気を取り戻しました。島田の名前は、現在も沖縄の人々の心に深く刻み込まれています。



島田 勲 沖縄県知事の慰霊碑 (写真提供：那覇市歴史博物館)

### 編集後記

私たちは広島・長崎での人類史上初めての原子爆弾投下や、沖縄では日本で唯一の地上戦を経験しました。三田市でも空襲により大切な命や財産を失うなど、戦争は私たちから多くのものを奪ってききました。

これらの経験から、私たちは「次の世代へ語り継いでいく」という

### 沖縄戦 年表

1944年 7月	緊急閣議により集団疎開決定 (九州に8万人、台湾へ2万人)
8月	学童疎開船「対馬丸」が撃沈される
10月	南西諸島大空襲、那覇十・十空襲
1945年 2月	沖縄本島疎開計画始まるも途中で沖縄戦に突入
23日	アメリカ軍が沖縄攻略戦開始
3月	アメリカ軍が沖縄に上陸
5月	日本軍が首里から摩文仁へ撤退
6月 23日	日本軍の組織的な抵抗が終わる
8月 6日	広島に原爆投下
9日	長崎に原爆投下
15日	終戦

行動を継続してきました。一人一人の命が大事にされる社会を作り、恒久的な平和を維持するために、歴史を正しく知り、行動していかなくてはなりません。

戦後76年を迎える今、島田勲知事の「命は宝」という言葉は、平和を願う全ての人の心に届くのではないでしようか。「命を大切にしよう」と、声を掛け合い、支え合う平和な社会をみんなで実現しましょう。



### 参考文献

- 10万人を超す命を救った沖縄県知事・島田勲
- TBSテレビ報道局「生きる」取材班 (ポプラ新書)
- 県庁壕の写真提供：ホームページ「地質情報ポータルサイト」
- ～沖縄県の地下壕～より
- 管理者：GeoInformation Portal Hub (GIPH)
- 島田勲知事関係の写真：那覇市歴史博物館



### 令和2年度 人権ポスター・標語受賞作品



上野台中学校1年(前年度) 澤田 陽子 さん

- コロナ禍に感染しないで
- コロナ禍に心まで
- ゆりのき台小PTA
- 西理恵さん

### 人権に関する総合相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063

月曜～金曜 9時～17時 (※祝日・年末年始を除く)

専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談 (予約)

TEL 559-5062 FAX 559-5063

月曜～金曜 9時～17時 (※祝日・年末年始を除く)

※専門相談員との相談日は予約後に調整

人権擁護委員会による定例人権相談 (予約)

TEL 559-5148 FAX 562-1294

《次回相談日》8月26日(木) 13時～16時

